

環境モデル6事業選定

川崎市 プール循環発電など

川崎市は12日、優れた環境技術の普及を後押しする「かわさき環境ショーウィンドウ・モデル事業」に、プール内の水の循環で発電する省エネ装置やオブジェにもなる球

状太陽電池など6件を選んだ。9月下旬から順次、市内の導入施設を公開する。市民の環境意識の向上にもつなげる狙い。

ろ過装置のショウエイ（川崎市）は水の落差とポンプの吸引力を利用してプールの配管内で発電する装置を開発。水をろ過する際に使う電気の一部を自らの発電で賄う。寺尾サッシ工業（同）

や流体力学工房（同）などは折り曲げ可能な太陽電池パネルを張り合わせた「ソーラーボール」を共同開発した。直径2メートルのタイプで出力は1・2キロワットという。

看板業の近藤工芸（同）は昼間に太陽光で発電した電気を夜間の発光ダイオード（LED）照明に使い、農作物の生育を促すシステムを考案した。川崎市農業技術支援センターで収穫のサイクル短縮に役立てる。

このほか窓用の遮光・断熱パネルや、次世代照明の無電極プラズマライトなどを認定した。